

2021/4/9

(うと Q 世話し 世の中何が起こるかわからない。一寸先は闇、かもしれないし、出口、かもしれない )

「世の中何が起こるかわからない」

これまでの経験則、そうしてここ数日の出来事から、この言葉に対して自分は、可成の実感をもって申し上げております。

話はいきなり飛びますが、昨今のコロナ禍で猛威を振るい始めた「変異株」というのは、遺伝子のコピーミスが原因により発生する様です。

変異と言え、これ迄よく耳にしてきたのが「突然変異」という言葉。

どんな時に耳にしたかといえ、猿の進化過程で突然変異が起き「人類の祖先」が生まれたという話においてでした。

つまり「人類の誕生」は「予期せぬ重大なコピーミスの結果」起こった、ともいえそうです。

少し悪い言い方をすれば、人類は正統派猿の完全な「出来損ない」

今の人類は「大失敗の結果生まれた出来損ないの鬼っ子」であると言えなくもありません。

そこ迄大きな話ではなくとも、自分の生涯においては、12 年間のうつ病の果てに

「こんな筈はない。何としても元に戻らねば」

と思い詰めていたのが

突如

「ああ、面倒くさっ。もうどうでもいいや。出来損ないで結構」

という全く反対の想いが芽生え、その何分か後には既に回復軌道に乗っていた事もありました。

これも、それ迄の自分からは「全く予期せぬ出来事」の故、からでした。

又、ここ数日の話では、その全く逆に、今コロナ禍の激闘の中で、やっとどうにか光明の手掛かりが見え始めたと思っていた矢先、主要スタッフの、かねてより気にはなっていて、その不摂生を再三注意はして参りましたが、突然の健康状態悪化による加療の為の退職で再び大ピンチに陥る羽目になってしまいました。

これも、またまた想像していたストーリーからは思ってもみなかった「全く予期せぬ出来事」でした。

いずれの場合にせよ

「通常の論理展開では考えられない飛躍が突如何の前触れもなく起きる事」

それが「世の中何が起きるかわからない。一寸先は闇」

の意味するところでしょう。

しかし、人類規模の話と、直近の自分のお店の話の間に登場する、自分の「うつ病消滅」物語の話から言えることは、その正反対に

「一寸先は出口」

と言えなくもありません。

その確率は五分と五分。

幸福期の一寸先は闇かもしれませんが、困難期の一寸先は「出口」かもしれません。

それは、通常の論理的展開では計り知る事のできないメカニズムが働いての事です。

そうした事はこの世の中、ままた起きる可能性がありますので、好調だからと言って油断をしすぎてはいけませんが、かといって過度に悲観して、そんなに簡単に諦める必要は、あまりないような気もしております。

なにせ

「世の中何が起こるかわからない。一寸先は出口」

かもしれませんから。

その確率は丁半の五分、必ず残っているわけですから。

要するに、世の中は危険とチャンスに満ちている、ということでしょう。

悔るなかれ、諦めるなかれ、でしょうか。